

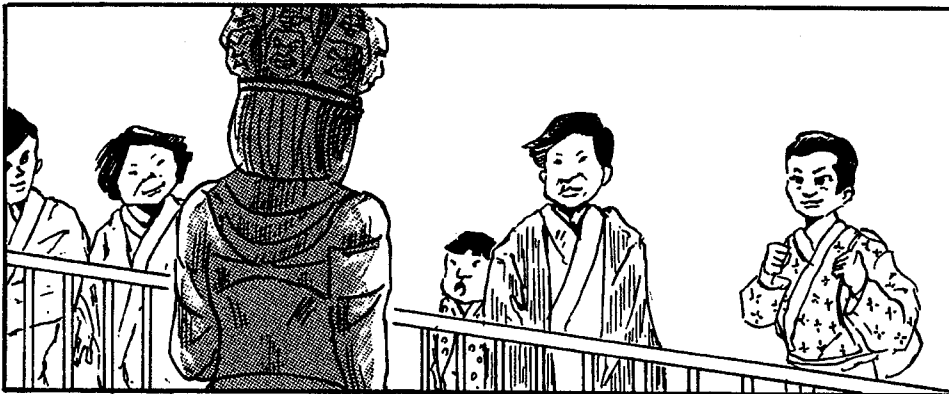
田中周刻記

でんちゅうちようこくき

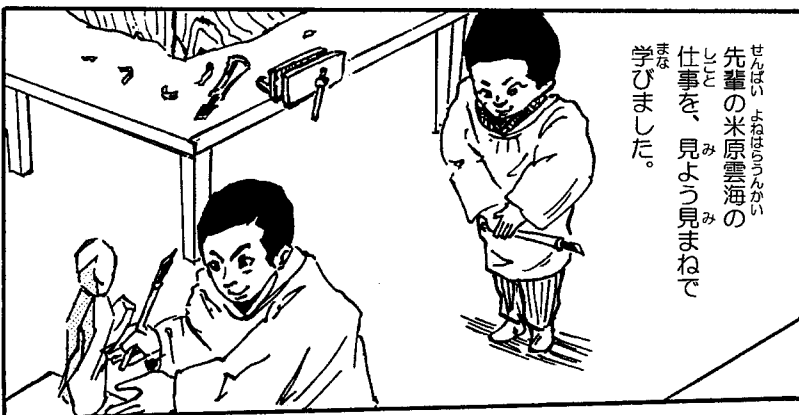
第二話 ぼしと ほう であ
～星取り法との出会い～

Takashi

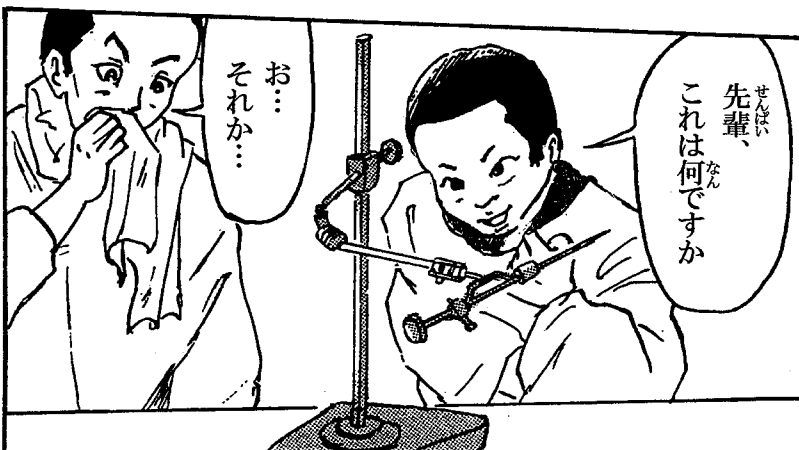
作 ©いとうたかし



にんぎょうし なかたにせいこ
人形師・中谷省古の教えを
う 受けた後、倅太郎は奈良にある
神社やお寺の仏像をいぼりへ
み 見て歩き、観察しました。



せんぱい 米原雲海の
先輩の米原雲海の
しごと 仕事を、見よう見まねで
まな 学びました。



せんぱい
先輩、
これは何ですか

お……
それか……



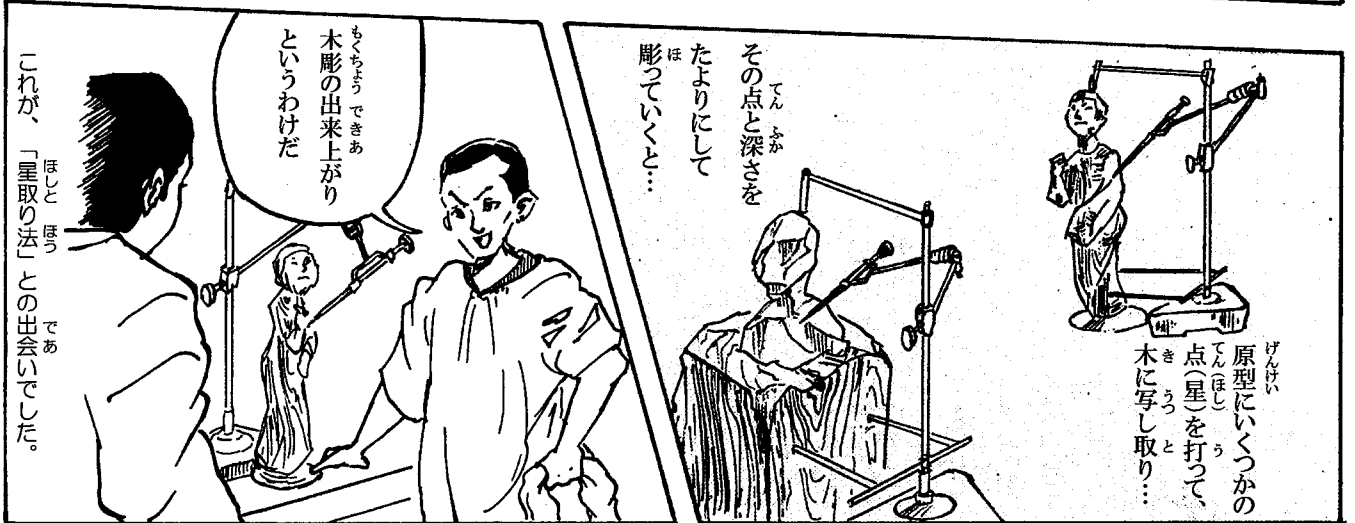
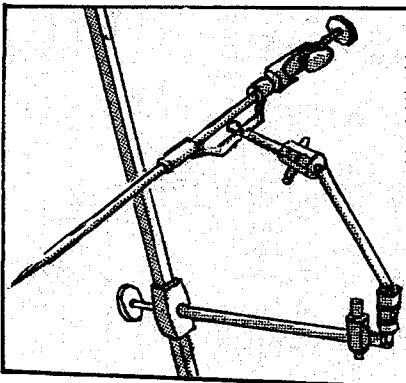
おのり、彫刻家の高村光雲のもとに
かよ 通つようになりました。

そこでは、
だくさんの弟子
たちが、
まぐひせいのまぐ
作品制作に
うっこ 打ち込んでいました。



これは星取り機と
いつてな……

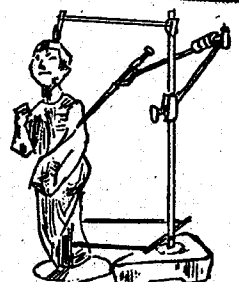
油粘土で作った原型を、
拡大、縮小して
木に写し取る
道具なんだ。



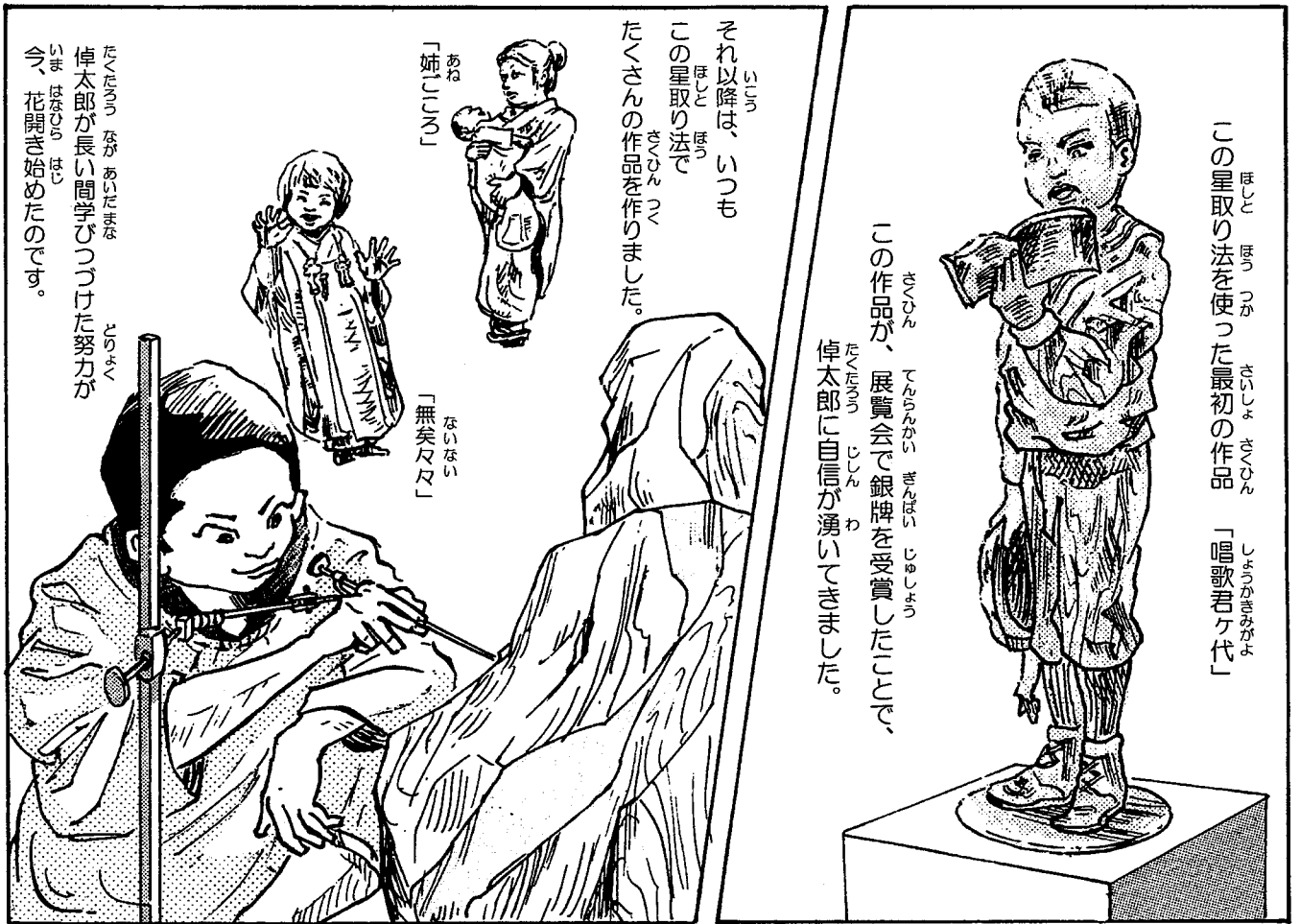
木彫の出来上がり
というわけだ

これが、「星取り法」との出会いでした。

その点と深さを
たよりにして
彫っていくと……



原型にいくつかの
点(星)を打って、
木に写し取り……



この星取り法を使った最初の作品「唱歌君ケ代」

この作品が、展覧会で銀牌を受賞したことで、
俣太郎に自信が湧いてきました。

それ以降は、いつも
この星取り法で
たくさん作品を作りました。

「姉」

「無実々々」

俣太郎が長い間学びつづけた努力が
今、花開き始めたのです。